

◎ 評価区分の判定基準

評価区分	評価点	評価基準	判定基準
A	2点	目標達成	R5目標値を達成
B	1点	目標未達成だが改善	R5目標値が未達成だが、H29基準値より改善
C	0点	悪化（未改善）	R5目標値が未達成かつ、H29基準値と同値又は悪化
D	—	評価不能	評価のデータなし

◎分野別の指標の目標達成状況一覧(令和5年度)

分野	A 目標達成	B 目標未達成 だが改善	C 悪化 (未改善)	D 評価不能	評価点平均	指標数
総合指標	0	0	2	0	<u>0.00</u>	2
1 生活習慣を見直そう						
(1)生活習慣の改善と維持・向上（成人期～高齢期）						
ア 栄養・食生活	1	0	3	0	<u>0.50</u>	4
イ 身体活動・運動	4	0	0	0	2.00	4
ウ たばこ	0	2	0	1	1.00	3
エ 歯・口腔の健康	2	1	0	0	1.67	3
(2)健康的な生活習慣の獲得						
ア 妊娠前・妊娠期・出産期	3	1	0	0	1.75	4
イ 乳幼児期	2	3	3	0	<u>0.88</u>	8
ウ 学齢期	2	2	5	2	<u>0.67</u>	11
2 病気を予防しよう						
(1)こころの病気の予防 (成人期～高齢期)	0	1	2	0	<u>0.33</u>	3
(2)生活習慣病の予防 (成人期～高齢期)	2	4	2	0	1.00	8
3 健康を社会で支えよう						
(1)地域における健康づくり活 動の活性化	1	1	1	0	1.00	3
合計	17	15	18	3	<u>0.98</u>	53

$$\text{評価点平均} = \frac{\text{「A 目標達成」} \times 2 + \text{「B 目標未達成だが改善」} \times 1 + \text{「C 悪化」} \times 0}{\text{「D 評価不能」を除く指標数}}$$

1 生活習慣を見直そう

(1) 生活習慣の改善と維持・向上（成人期～高齢期）

成人期～高齢期では、栄養面について改善できていない項目が多く課題が残りました。野菜の摂取量を増やすような働きかけについては成果が表れているものの、そのほかのバランスや間食、とりわけ朝食の欠食については大人も子どもも課題となりました。

身体活動、たばこ、歯・口腔の健康についてはそれぞれ成果が表れているため今後も継続し、食事量（摂取量）・活動量（消費量）のバランスの崩れを防ぐよう効果的な取組が必要です。

(2) 健康的な生活習慣の獲得

妊娠前・妊娠期・出産期については、制度の充実により提供されるサービスが増えたことでサポート環境の充実が図られました。今後はさらに、自分の健康管理ができるようになることや、地域全体で子育ての支援を継続していく必要があります。

乳幼児期については、体を使った遊び（運動）についてが悪化したため、体を使った遊びができるような環境づくりや、機会の提供、保護者への働きかけが必要です。

学童期は朝食を欠食する児童や肥満の児童が増加したため、学童期の食生活改善にも取り組んでいく必要があります。

2 病気を予防しよう

生活習慣病の予防については、改善の傾向がみられましたが、心の病気については悪化した項目もありました。悩みを抱えても相談できないという人を一人でも減らせるよう、相談先の周知とともにゲートキーパー養成を継続し、「こころの健康づくり」を進める必要があります。

また、セルフケアとして、睡眠の必要性や、年齢・活動量に合わせた「自分にとって必要な睡眠時間」がどのくらいか、睡眠の質を高められるような取組を進める必要があります。

3 健康を社会で支えよう

新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限のため、社会的活動の制限があり、地域の活動の場を始め、人とのつながりに大きな影響を及ぼしました。一方で、リモートでの交流や、SNSを使った情報のやり取りが増えました。また、ICT技術も進化を続けています。従来 of 地区組織活動を盛り上げていくだけではなく、実情に合わせ地域の健康づくりの効果的な方法を検討していく必要があります。